

平成22年度当初予算 重点的な取組別概要

<重点事業>

くらし11：森林再生「三重の森林づくり」(主担当部：環境森林部)

<重点事業の目標>

森林の公益的機能は、すべての県民の皆さんの生活に寄与し、不可欠なものであることから、その機能の維持増進に向けた取組は、緊急かつ着実に進めなければなりません。そのため、喫緊の課題である間伐を重点的に取り組むとともに、木材需要構造の変化に対応できる安定的な生産供給体制の整備を進めることなどにより、林業を活性化し、適正な森林整備・保全を推進します。

また、生活の中で森林の役割や木を使うことの意義を理解し、多様な主体がそれぞれの役割に応じて互いに協働しながら森林づくりに参画していけるよう、森林文化および森林環境教育の振興、森林づくりへの県民参加推進のためのしくみづくりを進めます。

<構成事業(担当部)>

- (1) 環境林整備推進事業(環境森林部)
- (2) 生産林整備推進事業(環境森林部)
- (3) 林業担い手育成確保対策事業(環境森林部)
- (4) 「三重の木を使おう」推進事業(環境森林部)
- (5) がんばる三重の林業創出事業(環境森林部)
- (6) 長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発事業(環境森林部)
- (7) 多様な主体による森林づくり事業(環境森林部)
- (8) 「みんなで考える三重の森林」事業(環境森林部)
- (9) 漁民の森づくり活動推進事業(環境森林部)
- (10) 森林とのふれあい・学び事業(環境森林部)

<重点事業の事業費>

(単位：千円)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
策定時の見込額 ※1	1,243,843	1,126,000	1,126,000	1,126,000
予算額等 ※2	989,802	1,155,978	1,335,126 (339,933)	970,177

※1 第二次戦略計画策定時における計画記載額

※2 H19,20年度は決算額、H21年度は予算現額、H22年度は当初予算額。21年度の下段括弧書きは20年度からの繰越額で予算現額の内数。

<重点事業の数値目標>

数値目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
間伐実施面積	目標値	—	8,000ha	8,000ha	8,000ha	8,000ha
	実績値	7,452ha	9,074ha	9,167ha		

※ 県内の民有林で行われる年間間伐実施面積

<構成事業の目標> 21年度実績値は1月末現在で把握できる見込み値を示しています。

事業目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(1) 森林整備面積 (環境林)	目標値	—	2,200ha	2,200ha	2,200ha	2,200ha
	実績値	1,500ha	1,623ha	2,055ha		
(2) 森林整備面積 (生産林)	目標値	—	4,100ha	4,100ha	4,100ha	4,100ha
	実績値	2,780ha	2,841ha	3,267ha		
(3) 林業作業士研修受講 者数	目標値	—	10人	10人	10人	10人
	実績値	11人	10人	10人	12人	
(4) 「三重の木」認証材の 製材工場からの出荷量	目標値	—	7,000m3	8,500m3	10,000m3	10,000m3
	実績値	5,137m3	8,416m3	8,740m3		
(5) 集約化による原木の 直送量	目標値	—	—	—	3,800m3	12,200m3
	実績値	—	—	400m3		
(6) 長伐期化対応の森林 管理・中大径材利用技術 開発	目標値	—	1件	2件	2件	2件
	実績値	—	1件	2件	2件	
(7) 森林づくりへのサポ ート回数	目標値	—	5回	5回	5回	5回
	実績値	5回	5回	5回		
(8) 森林フォーラム等へ の参加者数	目標値	—	700人	700人	700人	700人
	実績値	650人	649人	1,019人	928人	
(9) 漁民の森づくり活動 参加者数	目標値	—	270人	330人	370人	420人
	実績値	220人	330人	354人	350人	
(10) 指導者研修会の開 催数	目標値	—	3回	3回	3回	3回
	実績値	—	2回	4回		

<進捗状況（現状と課題）>

- ・ 長期的に林業の採算性が悪化してきた中で、林業経営意欲の低下などにより、適正に管理されない森林が増加し、公益的機能の低下が懸念されます。
- ・ 「緑の循環」をとおして森林の公益的機能の維持増進をはかるためには、県産材の利用拡大が重要なことから、「三重の木」認証制度の更なる定着を進めるため、認証事業者の増加をはかり、消費者へのPRの強化及び木材の多段階利用を進めることが必要となっています。
- ・ 国産材の需要構造の変化に対応可能な安定的な生産供給体制の整備が必要となっています。
- ・ 林業従事者の減少や高齢化は依然として進んでおり、林業を支える担い手の育成が急務となっています。
- ・ 森林づくりや木材利用の意義についての理解が一層深まることが重要なことから、森林環境教育を進めるとともに、多様な主体による森林づくりを推進する必要があります。

<平成22年度の取組方向>

- ① 森林の公益的機能の増進をはかるため、間伐を主体とした森林整備を引き続き進めるとともに、多様な需要に対応できるよう森林の団地化や木材の多段階利用等により林業の低コスト化を進め、木材の安定的な生産供給体制の整備を進めます。
- ② 「三重の木」認証制度に加え、木材利用の環境貢献度を「見える化」できる木材のCO2固定量認証制度の活用や木質バイオマスの利用促進により、県産材の利用拡大をはかります。
- ③ 林業担い手を確保するため、高校生を対象とした職場体験研修による新規就業者の確保を進めるとともに、技術研修によって就業者の定着化を促進します。
- ④ 社会全体で支える森林づくりを進めるため、森林のCO2吸収量認証制度の活用を検討するとともに、「三重のもりづくり月間（毎年10月）」を中心として森林環境教育に取り組みほか、森林ボランティア研修や「企業の森」の取組を進めます。

<主な事業>

- ① 森林環境創造事業【基本事業名：42201 環境林整備の推進】（事業(1)の一部）
（第6款 農林水産業費 第4項 林業費 9 森林総務費）
予算額：(21) 241,968千円 → (22) 288,088千円
事業概要：所有者から20年間管理委託を受けた環境林を公共財として位置づけ、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう、間伐や広葉樹の植栽などにより針葉樹と広葉樹の混交林への誘導を行うなどの多様な森林づくりを促進します。
（間伐実施面積 1,187ha）
- ② 造林事業【基本事業名：42202 生産林整備の推進】（事業(2)の一部）
（第6款 農林水産業費 第4項 林業費 5 造林費）
予算額：(21) 342,603千円 → (22) 304,453千円
事業概要：森林の公益的機能の高度発揮をはかるため、植栽、下刈、間伐等の森林整備を促進します。（間伐実施面積 1,005ha）
- ③（新）みんなで使おう「三重の木」消費拡大事業
【基本事業名：22501 県産材等の安定供給の推進】（事業(4)の一部）
（第6款 農林水産業費 第4項 林業費 2 林業振興指導費）
予算額：(21) — 千円 → (22) 14,050千円
事業概要：県産材のPRやモデル的な商業施設の木質化を支援するとともに、需要拡大につながるため、関東地域での「三重の木」セミナー等の開催や住宅展示会への出展を支援します。（モデル商業施設への支援 10ヶ所）
- ④ がんばる三重の林業創出事業【基本事業名：22501 県産材等の安定供給の推進】（事業(5)）
（第6款 農林水産業費 第4項 林業費 2 林業振興指導費）
予算額：(21) 81,067千円 → (22) 80,992千円
事業概要：森林の団地化・施業の集約化、作業路の整備や高性能林業機械の導入、施業プランナー等の人材育成を進めるとともに、木材流通の改善等に支援することにより、安定的な生産供給体制を整備します。（合板工場等への直送量 9,000m³）

- ⑤ 多様な主体による森林づくり事業【基本事業名：42203 森林づくりへの県民参画の推進】
(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 8緑化対策費) (事業(7))
予算額：(21) 2, 169 千円 → (22) 2, 143 千円
事業概要：森林環境に関心を寄せる企業による「企業の森」づくりなどを促進するため、森林所有者と企業との仲介や技術研修などのサポートを行うとともに、森林のCO2吸収量認証制度を活用したしくみづくりを進めます。
(企業の森等の取組 5取組)
- ⑥ 森林とのふれあい・学び事業【基本事業名：42204 森林文化および森林環境教育の振興】
(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 9森林総務費) (事業(10))
予算額：(21) 7, 896 千円 → (22) 7, 682 千円
事業概要：森林環境教育の指導者の育成やフィールドの整備、体験教室を実施するとともに、森林環境教育を進める学校にその活動フィールドを紹介するなど、県民と森林や木とのふれあいを促進します。
(教育の森における活動 11回、木づかいアイデアコンテスト 1回開催)